

# スマートフォンと マナー in オーストラリア

『スマートフォン』の普及による、オーストラリア人のマナーの変化は…？

早くから携帯電話が発達していた日本では、以前から公共の乗り物など様々な場所での携帯電話のマナーが議論されてきました。公共の乗り物では、例え同じ電車の中でも、車輦によって電源を切らなければならない、またはマナーモードにすれば電源を入れたままでもいいなど、複雑なルールがある場合があります。日本の携帯電話を取扱う各社のウェブサイトには、携帯電話で写真を撮る際のマナーや、インターネットを使用する際のマナーなどが注記され、携帯電話使用上のルール浸透に力を注いでいることが分かります。

一方、オーストラリアでは、携帯電話と言えば通話とSMSが主な使用目的でしたが、シドニー工科大学のデジタル・マーケティング・マネージャーのデビッド・フィリップ氏は、「スマートフォンが普及してきた現在、オーストラリア人の3分の1がスマートフォンでEメールをチェックし、70%以上がエンターテイメントや情報サービスにアクセスしている」「例え、コンピューターが使える時でも、携帯電話でインターネットに繋ぐ人が増えた」と述べています。

そこで、オーストラリアの携帯電話のマナーは、どう変化してきているのでしょうか。オーストラリア最大の通信会社、Telstra社が、オーストラリア人1023人に対して行った携帯電話のマナーに関する調査（結果は右①～⑤）で、“人々の不満リスト”の上位を占めた項目は、①のように以前から問題になっているものでした。しかし、Telstra社の消費者ディレクター、レベッカ・オフラヘティ氏は、『『スマートフォン』による“無作法の新しい波”がやってきた』と述べ、「携帯電話の売上げの3分の1以上が『スマートフォン』で、携帯電話でのFacebook利用は前年に比べて3倍に増えています。友人とのランチの間にFacebookで他の友人の行動を調べたり、ディナーの席で最新のアプリを見せびらかすことが許容されることなのかどうか分からない人がいる、というのも驚くべきことではありません」と語っています。

Telstra社の同じ調査の中で、5人中4人のオーストラリア人が「自分達は無作法になってきている」と答えていますが、「他人の間違った行動を注意することができる」と答えた人は、半数以下でした。『スマートフォン』の普及に伴い、いつでも情報へアクセスできるというポジティブな面と、マナーの低下というネガティブな面が浮き彫りになってきているようです。

情報元：2011年6月14日、Telstra社のメディア・リリース（2011年5月にTelstra社の依頼で、オンライン市場調査会社 Pure Profile が18歳から65歳までのオーストラリアの都市・地方在住オーストラリア人を対象に行った調査）。

## 【Telstra社による携帯電話のマナーに関する調査結果】

①

### 〈マナーが必要だと思うこと〉

- 公共の場で不適切な会話をする (80%)
- 運転中に携帯電話を使用する (80%)
- 大きな音・不快な呼び出し音 (55%)
- 公共の場での大音量の音楽を聴く (54%)
- 道路を渡る時に携帯電話を使用する (40%)

②

### 〈イラッとする他人の行為〉

- 公共の場での大音量の音楽を聴く (40%)
  - アプリを見せびらかす (38%)
  - ディナーの席で携帯電話を使用する (34%)
  - 個人的な写真を見るよう強制する (34%)
  - テキストを打つ時に消音しない (24%)
- (3分の1以上のオーストラリア人が携帯電話はエチケットに悪影響を与えていると思っている)

③

### 〈他人と自分〉

ほぼ2人に1人のオーストラリア人(47%)が、他人が公共の乗り物の中で携帯電話で話すのを嫌だと思っているが、57%の人が自分たちも同じことをしていると認めている。同じく、3分の1のオーストラリア人が道路を渡る時に携帯電話で話す人を不快に思っているが、27%の人は自分たちもすると答えている。

④

### 〈運転中の使用〉

65歳以上のオーストラリア人は、運転中に携帯電話を使用している人を見た時に最も不快だと感じている(94%)。しかし、18歳から24歳の人で、同じく不快だと感じるのは、80%にとどまっている。

⑤

### 〈性別による違い〉

25%の女性は、大きな音でテキストを打つ人を不快だと感じているが、男性は18%。一方、道路を渡る時に携帯電話で話す人は45%の男性が不快だと思うが、女性は34%。